

平成 21 年度 第5回 新河岸川流域川づくり連絡会 議事要旨

平成 21 年 10 月 13 日（火）清瀬市 野塩地域市民センター 第 2 会議室

項目	内容
I. 議事	
1. 新河岸川流域フォーラムについて	<p>新河岸川流域フォーラムのテーマ、企画内容について協議を行った。また、事務局から連絡会メンバーへ、水質調査コーナー用の採水、水質テスト説明者、連絡会メンバーの活動成果展示の協力依頼を行った。</p> <p>■主な意見等</p> <p><発表について></p> <ul style="list-style-type: none"> 空掘川の課題は水量確保である。そのため、秋ヶ瀬の取水堰から新河岸川に流している浄化用水を導水路で朝霞から東村山浄水場まで運び、空掘川から流して欲しいと考えており、この内容も含めた発表を検討している。 ふるさと歴史館が発表する「今昔物語(仮)」では、過去の空掘川の様子などについても発表して欲しい。 <p><常設展示について></p> <ul style="list-style-type: none"> 水質調査コーナーへの関心を高めるため、水質パックテストは昼休みに行き、第 2 部の 20 分休憩に結果発表と解説をしてはどうか。 昨年度の水質調査コーナーでは、各地の水質を比較できなかったため、今年度は上流・下流の比較ができるとうい。 <p><その他></p> <ul style="list-style-type: none"> 空掘川の水量確保に向け、どのようなことをしたらよいかというテーマを大々的に打ち出せないか。 水量確保のため外から水を川へ持ってくるには、事業を立ち上げる必要があるが、それには市民の気運の高まりが必要である。今後も行政と市民で話し合っていくことが大事である。 水量確保など、空掘川の問題を掘り下げるなら、空掘川で活動している団体がフォーラムとは別途で企画し、その宣伝をフォーラムで行ってもよいのではないか。 空掘川の問題は、総合治水対策や水循環再生で流域全体で捉えるべき大きな問題である。水量、川づくり、下水道や河川などのインフラ整備などすべてが関わってくる。フォーラムテーマとしてはどこに焦点を絞るか検討が必要である。 フォーラムは議論の場ではなく、発表内容を持ち帰ってもらう「きっかけの場」である。 <p>■決まったこと</p> <ul style="list-style-type: none"> 過去の空掘川の写真について、東京都北多摩北部建設事務所に確認する。 第 2 部の市民団体の発表時間は、長めに設定する。 今年度実施した、身近な川の一斉調査の結果データを後日提供してもらう。 柳瀬川流域コミュニケーションマップを展示に加え、インターネット接続方法を検討する。 開催案内チラシについて、連絡会メンバー等へメールで案内する。 <p>事務局は以上の内容を踏まえ、企画内容の詳細を詰めることとなった。</p>
2. 川でつながる発表会について	<p>第 6 回川でつながる発表会の企画内容について協議を行った。</p> <p>■主な意見等</p> <ul style="list-style-type: none"> 参加対象に、市民大学や高齢者大学を加えてはどうか。 昨年度開催した自由学園は学生と協働で実施ができた。 <p>事務局は自由学園を会場の第一候補とし、参加校の設定について検討する。</p>
3. 流域しんぶん「里川」について	<p>里川 59 号、60 号について事務局より説明を行い、連絡会メンバーは内容について確認した。また、メンバーによるイベント情報の提供があった。</p> <p>【主なイベント情報】11 月中旬～「東大和市連続講座『暮らしと水(仮)』」、1 月 31 日「川の日ワークショップ関東大会」、1 月下旬「黒目川の景観を考える集い」</p>
4. その他	<p>事務局から、柳瀬川流域水循環アクションプランのフォローアップについての説明と情報提供の依頼を行った。</p>
II. 情報交換	
<p>◆事務局からの情報提供</p> <p>◆市民からの情報提供</p> <ul style="list-style-type: none"> 11 月中旬から、東大和市の公民館で連続講座「暮らしと水(仮)」の開講を予定している。講座の中では九州大学 島谷教授の講演を予定している。 川の日ワークショップ、黒目川の景観を考える集い等。事務局は詳細内容の確認を行う。 <p>◆平成 21 年度第 6 回連絡会開催について</p> <p>第 6 回新河岸川流域川づくり連絡会は 1 月 19 日（火）朝霞市産業文化センターで開催する。 以上</p>	